

## 10 本学歯科技工士学科生の異動実態について 第Ⅱ報 — 20年間に於ける退学者の現状と今後の課題 —

相馬泰栄

明倫短期大学 歯科技工士学科

keywords : 入・退学率, 高校時代, 退学理由 (3~5ワード)

### はじめに

本学は平成9年4月に開学し、今年で20年を迎えた。その間、退学者の実態については、平成18年の明倫学会で発表。その後、平成26年の月例会でAO入学者の退学について発表した。これまでの20年間の学生指導を振り返り、今回は平成18年度生から26年度生が卒業した平成28年3月までの退学の現状について、開学当初の10年間と比較したので報告する。

### 対象および方法

対象：本学科に入学した平成9年度生から平成17年度生519名と平成18年度生から平成26年度生399名とした。

方法：退学生の実態を男女別、学年別、退学理由について比較した。

比較するにあたり、平成9年度生から17年度生までを開学からの10年間とし、平成18年度生から平成26年度生までをその後の10年間とした。

### 結果および考察

退学率を本学の学科生と全国歯科技工士養成校生とで比較した結果、開学からの10年間では本学科生が9.8%、全国歯科技工士養成校生は10.1%であった。また、その後の10年間では本学科生の退学率は8.8%、全国歯科技工士養成校生が11.3%であった。

本学科生の男女別退学率は開学からの10年間では男子が12.4%、女子が7%、その後の10年間では男子が10.4%、女子が6.7%であった。

本学科生の学年別退学率は開学からの10年間では1年次に92.9%、その後の10年間では82.9%を占めた。退学者が1年次に集中したことから高校時代に何か問題が無かったかを知るために、高校時の評定平均と欠席状況についてそれぞれ調べた結果、男子

は評定平均の低い学生ほど退学率が高く、女子では比較的評定平均の高い学生が退学する傾向が見られた。

本学科生の高校時の欠席状況を調べて結果、男女とも欠席日数0~10日が最も多く、約38%を占めた。また、欠席日数が31日以上の中には欠席日数が50~100日以上の学生も5名含まれていた。

本学科生の退学理由を男女別に比較してみると男子は目的意識の欠如が最も多く、続いて学業不振、病気、経済的な理由の順であった。女子ではやはり目的意識の欠如が最も多く、続いて集団生活不適應、学業不振、病気、経済的な理由の順であった。

以上の結果から、男女とも退学者の多くは歯科技工について、十分な知識と理解を得ないまま受験し、入学したことが大きな要因と考えられる。また、入学生の学力や理解力等の問題もあげられるが、入学後は学生が職業意識の向上が図れる様な取り組みと学業に対するモチベーションを維持するための対策が重要であると考えられる。